

(平成23年12月)

## 研究生生活報告書

京都大学大学院 人間・環境学研究科 D1  
きむ みんじょん  
金 旻貞

新年あけましておめでとうございます。

昨年は様々なでき事がありました。私にとって一番大きな出来事はやはり2011年度かめのり大学院留学アジア奨学生に選ばれたことです。財団の後援で研究を深めることができ、研究に邁進しています。

一方、2011年を振り返る上で東日本大震災を避けて通ることはできないでしょう。奇しくも震災当日は、財団の面接のために上京していた為に自身も帰宅困難者となり、今まで感じたこともない災害の恐怖を肌で実感しました。被害者の方々の気持ちを思うと心が痛むと同時に、それでも研究という自分の夢をはっきりと確かめる時間ともなりました。「一陽来復」、悪い状況の後にはよい状況がめぐってくると言いますが、2012年が2011年を乗り越えた私達にとって良い一年となりますように祈りたいと思います。

大学の時間軸からみると、まだD1の最後の学期が残っています。12月大学での研究生生活では、談山神社の調査結果のまとめに終始しました。限られた時間内にまとめることを何度も先生から指摘されていますが、データの解析や纏まらない文書など分からないことだらけで戸惑っています。しかし、春には学会での発表が控えており、今後スピードを上げて参りたいと思います。4月まではこのデータとの戦いが続くでしょう。

文化財レスキュー活動および作業状況に関しては毎月この場で報告してきました。12月には本研究室の主催で『被災文化財のレスキュー-保存科学の果たすべき役割と課題』と題した「保存科学研究集会」が開催されました。日本は地震による被害にとどまらず、水害もまた頻発している国と言っても過言ではない状況にあります。今回の研究集会では、文化財を災害から守るための日常の備え、その体制、管理のありかたなどについて議論がなされました。私達学生は、アシスタントとして研究集会に参加し、これまでのレスキュー活動を通じて蓄積された様々な経験とともに明らかとなってきた多くの問題点を学ぶことができ大変勉強になりました。

その他には顔料学会が主催する講習会に参加しました。この講習会は顔料の分散および有機溶剤に関する基本的な知識の習得を目的としたものでした。講習会は顔料の劣化要因を考える上でも重要な内容を含んでいたと思います。また、有機溶剤を扱っている立場としても大変興味深い講義が続いて、有機溶剤の人体に及ぼす影響と安全管理に関する知識を学ぶことができ、大変有益な時間でした。